



元気に育つことを願って、一つ一つ丁寧に植えていました。

思いやりの心を育む

人権の花運動

市では毎年、人権擁護委員の協力のもと「人権の花」を育てる運動を行っています。協力して花を育てることを通して、児童に優しい思いやりの心を育むことを目的としているこの運動。今年は6月7日(月)に御園小学校へ花の贈呈を行い、3年生133人と人権擁護委員7人で47鉢のプランターに苗を植えました。

また、今年は苗植えに併せて、児童から新型コロナウイルスワクチン接種に携わる医療従事者に宛てた感謝や励ましのメッセージカードを作成しました。

人生100年時代の生涯学習

野々市寿大学校 大人の理科教室

60歳以上を対象に開校している生涯学習の場、野々市寿大学校。今年度は37人が入校し、教養や歴史、体力づくりなどさまざまな内容の学習活動に取り組んでいます。6月11日(金)の講座は大人の理科教室。複数の偏光板を使って、光が持つ波の性質を実際に観察しました。4枚の偏光板を貼った箱を作り、中をのぞくと中央にないはずの壁が現れるという実験では、「不思議!」「こんな風の実験したの何年ぶり」といった、科学の面白さを楽しむ声が上がっていました。



グループで教え合いながら実験する様子がとても楽しそうでした。



野々市市からは福田康浩さんを収めた写真が飾られました。

いつもの農風景が変わる

農 photo HYAKUSHO のカタチ写真展

5月21日(金)から30日(日)にかけて、学びの杜のいちカレードでNPO法人アグリファイブと市観光物産協会が農業をテーマにした写真展を開催しました。農家一人ひとりのあるがままの生きざまを切り取った写真から農業を応援する試みで、農業のマイナスイメージを払拭し、消費者の興味や関心を高めようとするものです。会場にはフォトグラファーの西鍛治綾さんが収めた農家23人分の写真が所狭しと並び、その魅力的な農 photo の数々に訪れた人は目を奪われていました。



協定締結後は施設を見学。ドッグラン付きの個室が並びます。

もしもの時もペットと共に

災害時におけるペット等の避難に関する協定

市と株式会社SU-BEE(サビー)は5月27日(木)、ペット等の避難に関する協定を締結しました。これは、災害時にペットと一緒に避難生活を送れるよう、同社が運営する施設「D.E.ドッグラウンジ」(栗田6)を開放いただくもの。被災者10組程度の受け入れが可能です。ペットと避難生活ができる施設との協定は全国的にも珍しく、県内では初の取り組みです。代表取締役社長の田端弘一氏は「愛犬との豊かな時間を作りたい。災害時も安心・安全を提供できれば」と話しました。

まちの話題 Focus

皆さんの周りの楽しい話題やイベントなどの情報を教えてください。
市民協働課 ☎227-6056

つながれ、つなぐ、希望の炎

東京2020オリンピック聖火リレー 点火セレモニー

5月31日(月)、6月1日(火)、石川県で東京2020オリンピック聖火リレーの点火セレモニーが実施されました。新型コロナウイルスの影響で1年の延期となっていた聖火リレーですが、感染状況を考慮し、石川県では公道でのリレーが中止され、聖火ランナーによるトーチキスと点火セレモニーのみの実施となりました。

1日目の金沢城公園では、野々市市を走る予定だった8人を含む104人の聖火ランナーがトーチキスを行い、最終ランナーとしてオリンピックの松本薫さんが聖火皿に聖火を灯しました。また、2日目は湯っ足りパーク(七尾市)で79人の聖火ランナーがトーチキスを行いました。参加した聖火ランナーは「公道を走れなくなったのは残念だが、トーチキスの場だけでも用意してもらえて本当によかった」と喜んでいました。聖火は東京2020オリンピックの象徴として、日本全国をつなぐのち、最終地点の東京都をめざします。



市内を走る予定だった8人の聖火ランナー



松本薫さんが点火



市民として野々市市の聖火ランナーに選ばれた高島さん(左)と水落さん(右)

力強く燃える聖火

地域で予約をサポート!

町内会で新型コロナワクチンの予約代行

65歳以上への新型コロナワクチン接種が進む中、その予約を町内会でサポートする取り組みが行われています。粟田連合町内会では、自警団や住民有志が手続きを代行。6月4日までに、33人がサポートを利用しました。丸木町会では、予約代行に加えてインターネットでの予約を行う際のポイントを結ネットで共有し、円滑に予約を行うための情報提供も行いました。会長の吉岡潤さんは「町会での活動が制限される中、少しでも役に立てることをしていきたい」と話しました。



丸木町会の様子。この日は代行した全員分の予約が取れました。

自宅から届ける思いやり

ちょっとボランティア ぞうきんを作ろう

ちょいボラでは「自宅でできるボランティア」として、各家庭からぞうきんやウエスを集めて福祉施設に届けています。また、タオルが寄付された場合は、ボランティアの皆さんがぞうきんにしています。6月17日(木)には、いきがいセンターの利用者7人が慣れた手つきでタオル切って、次々とぞうきんを縫っていました。ぞうきんとウエスは7、8月も市社会福祉協議会で集めています。自宅でできるボランティアに、あなたも参加してみませんか?



昨年度はぞうきん607枚、ウエス1,580枚が集まりました。